自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0191400407		
法人名	特定医療法人　富田病院		
事業所名	高齢者　グループホーム　あねもね　戸倉ヶ丘　1階ユニット		
所在地	北海道　函館市　戸倉町15番10号		
自己評価作成日	平成31年1月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400407-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

御本人様がこれまでの暮らしで行ってきた食事の支度等の生活上の役割や、園芸等の家庭での出番を無理の無い程度に続けて頂けるよう、又家庭での茶の間の様な雰囲気や、ゆったりとした暖かい生活をして頂けるよう職員一同心掛け「笑顔あふれる皆の家」を目指しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームあねもね戸倉ヶ丘」は、函館市北東部の住宅街に位置し、近くには函館大学や函館工業高等専門学校、戸倉中学校などが点在する静かな立地にある。建物は鉄骨造り2階建の2ユニットで、玄関ホールには季節を醸し出す華やかなお雛様が飾られて、訪れる人の気持ちを和ませてくれる。2階の窓から望む函館山は、市民にとって山にかかる雲の具合で天気を予測したり、春の芽吹きから初冬に至る景色の変化に四季の移ろいを感じるなど、ここに住む人達にとって、今も昔も日々の暮らしに外せない風景である。ケアの面では利用者の残存能力を活かしたり、得意を引き出すために、食事の後片付けや共有空間の掃除など、様々なお手伝いを順番や役割を決めてお願いしている。身体拘束禁止や災害対策など各種マニュアルが整備され、全職員に配布し個々人で保管管理している。職員同士の関係も良好で些細な気づきや意見・要望も言い出しやすい環境が構築されており、子育て中の職員も働き続けられる様に、シフト面で十分配慮するなど、就業環境が整備され、また、離職率低下や職員のチームワークのよさにもつなげている。医師との連携も密に図り、薬の調整や食事の相談には利用者の状態に合わせて、具体的に指示を受けている。家庭的な環境の下、安心と尊厳ある生活を送ることが出来る事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（1階ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して共有し実践している。また理念についての勉強会等で再確認をしている。	「笑顔あふれる皆の家」を理念とし、管理者と職員は会議で掘り下げて話し合い、毎年ユニット毎の目標と個人目標を定めて、年1回振り返りと勉強会を行い、理念がケアサービスに反映されているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等で近隣のお店からケーキを購入したり、町内を散歩しながら地域の方との交流を図ったりしている。	町内会に加入しており、毎月町内だよりが届けられている。8月の納涼祭やクリスマス会など、事業所の行事には家族や近所の方が多数参加して楽しいイベントになっている。七夕には事業所を訪れる地域の子供達にお菓子を配ったり、言葉を交わして積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前迷子の高齢者を保護し、警察官に引き継いだ。（後日町内ではないが近隣の方であったとの報告が警察よりあった）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の生活の様子を報告し、御家族様との情報交換を行っている。職員も大変だからレクや行事の飾りつけ等、制作を家族が手伝いますと意見有り、作品を居室に貼って頂いたり、ウェス用のぼろきれを自宅で裁断して持ってきてくれた。	包括支援センターや家族、町内の方が出席して、定期的に開催している。事業所から入居者状況や報告事項があり、脱水症状や熱中症、インフルエンザ予防など季節的な勉強も行われるなど、話題も多岐に渡り活発な意見交換の場となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。	行政とは介護保険の申請や更新手続きなどで直接出向くことも多く、顔見知りの関係が築かれ、協力体制も構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位のケアを実践している。外部研修に参加をし研修内容を職員間で周知徹底している。また、内部研修も2回行い参加できなかった職員へも周知徹底している。	身体拘束禁止マニュアルを整備し、全職員で徹底理解を図っている。法人や内部、外部研修会など研修に参加する機会も多く確保し、報告会を行って全職員で研修内容を把握している。医師との関係も良好で薬の調整などは連携を図り、本人にとって最善の方法を取り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	御家族様及び職員間で情報交換を行い、虐待及び虐待と思われる介護をしない事を心掛けている。また教育委員会で勉強会を開いたり、研修への参加を積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（1階ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし、相談があった場合は支援している。また研修への参加を積極的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時に生活の中で困っている事が無いかお聞きしたり、運営推進会議を利用して御要望を伺ったりしている。御家族様の行事や外食等への参加時には、御意見や御感想をお聞きし次の催しの参考にしている。	運営推進会議や面会時に意見を聴いている。家族はレクリエーション時のボランティアや行事に同行するなど、協力体制を整えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや合同ミーティングを利用している。アンケートや個人面談等も行うようにしている。また普段の業務の中でも情報交換をしている。	日常的に気が付いた事はその都度話し合い、意見を収集して連絡ノートに記載し全職員で共有している。シフト面が考慮されており、子育て中でも働き続けられる環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを図り、個々の能力を見極めアドバイスしている。職場環境についても改善出来るものはしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動等を通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと勉強会を行っている。 （道南グループホーム協会Bブロック会議）		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（1階ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で、困っている事が無いか伺っている。手を握る等コミュニケーションを取っている。顔を合わせる時には、常に挨拶を忘れないように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は事前面談を行い、御家族様並びに利用者様の生活状況を聴き、どの様な介護を望まれているのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は事前面談を行い、御家族様並びに利用者様の生活状況を聴き、待機期間がある場合は他のサービスの利用を提供し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作り等、在宅と同じ様な生活が出来るよう場面を作り、職員が同居者の様な関係でいられるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と御家族様が話合える環境や機会を作ったり、ケアに対して御家族様に相談したりしている。入居者様が職員に言えない事を御家族様に聞いて頂いたりと、より快適な生活をして頂く為に、御家族様と一緒にケアに当たっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と連絡を密に取って外泊や外出の機会を増やし、馴染みのある場所や馴染みのある方との交流を促している。	家族と一緒に馴染みの美容院に行ったり、知人や友人に電話をし、季節の挨拶を込めた贈り物をするなど、一人ひとり今までの生活習慣を大切にしている。家族と外出した際は自宅近くの、昔お世話になったお店に立ち寄り継続的に交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでテレビ鑑賞やレクリエーション、調理等を通して、入居者同士が顔見知りの関係を作れるよう促している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（1階ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を電話連絡等を通じ行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様や御家族様からの聴取や、生活歴から反映出来るようにしている。又面会時に御家族様に確認している。	本物のビールが飲みたい、ホワイトアスパラガスや枝豆、ピザが食べたいなど、自らの思いを自由に表現し、職員は一人ひとりの意向や希望が叶う様に努めケアプランに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や御家族様からの聴取や、生活歴から反映出来るようにしている。又面会時に御家族様に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜ケアカンファレンスしモニタリングを行い、御本人に合ったニーズ目標に向かうよう、ケア担当者、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するように努めている。	更新は6か月を目途に行っているが、状況の変化や体調によって新しいニーズが見つかった時はその都度検討して、実態に合った介護計画を作成している。介護目標に記号や番号を付け、日々の記録に実施状況を記載して計画が実行されている事を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し、介護計画の見直し、日々の申し送り、ミーティング、各種委員会活動を通し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な社会資源を利用し、サービス提供は臨機応変に行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食事外食等を通し社会性が衰えないようにしている。行事では近隣の方へチラシを配りお知らせし施設に来て頂いたり、七夕には近所の子供さんに来て頂き入居者様からお菓子を手渡しして頂いた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診、受診を通じ情報交換を行っている。	母体病院の医師をかかりつけとし、医師は利用者とフレンドリーに接し信頼も厚く、毎週看護師による健康管理も行われている。歯科は月2回往診があり、眼科受診は家族と相談しながら職員が同行し、受診結果は経過が分かる様に記録し、家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（1階ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職員へ報告し、判断を仰ぎながら往診、受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族様との情報交換、病院からの病状の把握をしながら協力関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて御家族様と共有する際に、施設として支援している。	契約時に看取りに関する指針を基に本人と家族に十分説明をしている。緊急時の手順マニュアルを整備し、各ユニットと全職員が個々に保管して、利用者、家族、医療機関と相談しながら最善の対応が出来るように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また地域の他グループホームとの間に災害時の緊急連絡網を作り、連絡体制を築いている。（道南グループホーム協会Bブロック）	定期的に地域住民の協力を得ながら避難訓練を実施している。火災や地震、風水、土砂など自然災害を想定したマニュアルを作成して全職員に周知している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。	呼び方は家族と相談しながら本人が心地よいものにし、声は低めのトーンでゆっくりとは話す様に心がけ、お手伝いをお願いする時は「質問調」の言葉で話しかけて、プライドを損ねない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。今、何を望んでいるのか入居者様の思いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また行事や外食等の際にはお化粧を手伝ったり、着ていく服を選んだりと支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（1階ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々食べたい物の要望等を聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。	毎月2回外食やおやつ外食を取り入れたり、食事のチラシを見ながら利用者同士で相談をして、和食や洋食、ピザなど好みの物を選び食事が楽しくなる様に工夫している。近くのケーキ屋さんはいつも利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等を記録し、入居者様の嚥下状態に合わせ食事形態の工夫をしたり、食べ易い物へ変えたりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、入居者様一人一人の排泄パターンの把握や、声の掛け方のタイミングの工夫をし、排泄を定期的に促している。	利用者の半数位は概ね自立しており、おむつやパッドなどを利用する時は家族と話し合い、智恵を出し合いながら尿量や体型、昼夜に合わせて適正な製品を使用し、安眠と経費軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に努め、食事や乳製品の飲み物の提供や体操などを行って頂きながら、予防に努めている。また、温罨法やマッサージ等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の意向に即した入浴を心掛けている。	利用者の希望や都合に合わせて、週2回以上の入浴を支援している。安全面に配慮して湯加減を調整したりバスボードを利用して介助している。入浴を嫌がる時は利用者同士で声をかけ合ったり、入浴したくなる様な話題を持ちかけて、気持ちを和らげる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師に指示及び、看護職員の指導等で服薬についての知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様との普段の会話の中から、好みの物事や昔楽しかった出来事、催し物の内容等をお聞きしたりして情報収集を行っている。又御家族様からの情報を元に支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（1階ユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛ける事やコンビニでの買い物等、外出の機会を作る事で外出支援を行っている。	日常的に玄関先のベンチに座って外気浴をしたり、散歩を兼ねて近所のケーキ屋さんやコンビニエンスストアで、おやつなどの買い物をして気軽な外出を楽しんでいる。花見や紅葉狩り、外食など計画的に外出する機会も多くしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	床屋の支払いやコンビニでの買い物等、入居者様の状態により行っている。。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会、電話、手紙（はがき）、年賀状、広報誌等で近況を報告し出来るように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清掃により衛生的な環境作りに努めている。また季節毎に飾りつけを行い、季節感を実感出来るように努めている。	共有の空間は採光に優れ、温度や湿度も適正に管理され掃除も行き届き、清潔が保たれている。廊下には十二支とその由来を記載した絵が貼られ、利用者同士お互いの干支を話題にして会話を弾ませている。また、2階から見える函館山の景色は、ここに住む人にとって、なくてはならない風景となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の愛着のある物を持ち込んで頂くよう促している。	大容量のクローゼットが備え付けられた居室に、介護用ベッドや馴染みの家具を使いやすく配置し、お気に入りの写真も貼り一人ひとり個性的で、住み心地よくゆっくりと寛げる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯等、御本人様が行える事は安全面を考慮しながら一緒に行えるように努めている。		

高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘
（別紙4－1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0191400407		
法人名	特定医療法人　富田病院		
事業所名	高齢者　グループホーム　あねもね　戸倉ヶ丘　2階ユニット		
所在地	北海道　函館市　戸倉町15番10号		
自己評価作成日	平成31年1月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400407-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

御本人様がこれまでの暮らしで行ってきた食事の支度等の生活上の役割や、園芸等の家庭での出番を無理の無い程度に続けて頂けるよう、又家庭での茶の間の様な雰囲気や、ゆったりとした暖かい生活をして頂けるよう職員一同心掛け「笑顔あふれる皆の家」を目指しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して共有し実践している。また理念についての勉強会等で再確認をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等で近隣のお店からケーキを購入したり、町内を散歩しながら地域の方との交流を図ったりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前迷子の高齢者を保護し、警察官に引き継いだ。（後日町内ではないが近隣の方であったとの報告が警察よりあった）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の生活の様子を報告し、御家族様との情報交換を行っている。職員も大変だからレクや行事の飾りつけ等、制作を家族が手伝いますと意見有り、作品を居室に貼って頂いたり、ウェス用のぼろきれを自宅で裁断して持ってきてくれた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位のケアを実践している。外部研修に参加をし研修内容を職員間で周知徹底している。また、内部研修も2回行い参加できなかった職員へも周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	御家族様及び職員間で情報交換を行い、虐待及び虐待と思われる介護をしない事を心掛けている。また教育委員会で勉強会を開いたり、研修への参加を積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし、相談があった場合は支援している。また研修への参加を積極的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時に生活の中で困っている事が無いかお聞きしたり、運営推進会議を利用して御要望を伺ったりしている。御家族様の行事や外食等への参加時には、御意見や御感想をお聞きし次の催しの参考にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや合同ミーティングを利用している。アンケートや個人面談等も行うようにしている。また普段の業務の中でも情報交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを図り、個々の能力を見極めアドバイスしている。職場環境についても改善出来るものはしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動等を通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと勉強会を行っている。 （道南グループホーム協会Bブロック会議）		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で、困っている事が無いか伺っている。手を握る等コミュニケーションを取っている。顔を合わせる時には、常に挨拶を忘れないように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は事前面談を行い、御家族様並びに利用者様の生活状況を聴き、どの様な介護を望まれているのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は事前面談を行い、御家族様並びに利用者様の生活状況を聴き、待機期間がある場合は他のサービスの利用を提供し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作り等、在宅と同じ様な生活が出来るよう場面を作り、職員が同居者の様な関係でいられるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と御家族様が話合える環境や機会を作ったり、ケアに対して御家族様に相談したりしている。入居者様が職員に言えない事を御家族様に聞いて頂いたりと、より快適な生活をして頂く為に、御家族様と一緒にケアに当たっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と連絡を密に取って外泊や外出の機会を増やし、馴染みのある場所や馴染みのある方との交流を促している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでテレビ鑑賞やレクリエーション、調理等を通して、入居者同士が顔見知りの関係を作れるよう促している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を電話連絡等を通じ行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様や御家族様からの聴取や、生活歴から反映出来るようにしている。又面会時に御家族様に確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や御家族様からの聴取や、生活歴から反映出来るようにしている。又面会時に御家族様に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適宜ケアカンファレンスしモニタリングを行い、御本人に合ったニーズ目標に向かうよう、ケア担当者、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し、介護計画の見直し、日々の申し送り、ミーティング、各種委員会活動を通し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な社会資源を利用し、サービス提供は臨機応変に行うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食事外食等を通し社会性が衰えないようにしている。行事では近隣の方へチラシを配りお知らせし施設に来て頂いたり、七夕には近所の子供さんに来て頂き入居者様からお菓子を手渡しして頂いた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診、受診を通じ情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職員へ報告し、判断を仰ぎながら往診、受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族様との情報交換、病院からの病状の把握をしながら協力関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて御家族様と共有する際に、施設として支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また地域の他グループホームとの間に災害時の緊急連絡網を作り、連絡体制を築いている。（道南グループホーム協会Bブロック）		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。今、何を望んでいるのか入居者様の思いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また行事や外食等の際にはお化粧を手伝ったり、着ていく服を選んだりと支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々食べたい物の要望等を聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等を記録し、入居者様の嚥下状態に合わせ食事形態の工夫をしたり、食べ易い物へ変えたりして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、入居者様一人一人の排泄パターンの把握や、声の掛け方のタイミングの工夫をし、排泄を定期的に促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に努め、食事や乳製品の飲み物の提供や体操などを行って頂きながら、予防に努めている。また、温罨法やマッサージ等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の意向に即した入浴を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師に指示及び、看護職員の指導等で服薬についての知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様との普段の会話の中から、好みの物事や昔楽しかった出来事、催し物の内容等をお聞きしたりして情報収集を行っている。又御家族様からの情報を元に支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階ユニット）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛ける事やコンビニでの買い物等、外出の機会を作る事で外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	床屋の支払いやコンビニでの買い物等、入居者様の状態により行っている。。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会、電話、手紙（はがき）、年賀状、広報誌等で近況を報告し出来るように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清掃により衛生的な環境作りに努めている。また季節毎に飾りつけを行い、季節感を実感出来るように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の愛着のある物を持ち込んで頂くよう促している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯等、御本人様が行える事は安全面を考慮しながら一緒に行えるように努めている。		

（別紙4-2）

事 業 所 名　高齢者グループホームあねもね戸倉ヶ丘
作　成　日：平成 31年　3月　18日
市町村受理日：平成 31年　3月　25日

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時用の入居者様持ち出し情報の整備が不十分である。	災害時用入居者様持ち出し情報の整備を行う。	災害時用に入居者様別個人情報ホルダーを作成する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。